

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部



令和七年一月度 入賞句一覧

投句数 千二百三十四句

特選

星野 勝 選

かるたとりどけたくはない重なる手

大垣市

杉本 彩華 (小六)

正月の遊びの定番の一つがかかるた取りですね。最近あまり見なくなりましたが、家族や友達と楽しくにぎやかにする遊びです。百人一首を使つて行う本格的な競技歌留多も映画になつたりニュースで取り上げられたりします。読まれた瞬間、一斉に札に手が伸びて重なり合う瞬間の情景が浮かぶ句です。「どけたくはない」という表現から、その瞬間の場の緊張感や、その後どうなつたかも想像させてくれる句になりました。

こつそりと夜食を食べる幸福感

大垣市

わだ ゆうき (小六)

作者は遅くまで勉強していたのでしょうか。「夜食」は秋の季語です。夜が長くなり、読書をしたり勉強をしたりする時間が長くなる時ですね。作者はこつそりと何を食べたのでしょうか。見つからないように注意を払いながら幸福感に浸っているのですね。そんな作者の姿が想像できる句になりました。でも、「こつそりと」の言葉には「幸福感」と共にきつと「罪悪感」もあつたに違いありません。詠み手がフツと笑みを浮かべてしまふような句です。

空眺め心を癒す日向ぼこ

加茂郡川辺町

中島 葉奈 (中三)

作者は中学三年生。この冬は受験に向けて追い込みをかけていることでしょうか。集中して勉強しているときに、ふと気分転換に休憩をとつたのでしょうか。勉強はもちろん、学校のことで、将来のことなどさまざまな思いを巡らせる毎日から、一瞬解き放たれた作者の心が伝わってきます。「心を癒す」にぴつたりな季語「日向ぼこ」ですね。しばらくゆつたりとした時間を過ごし、再び机に向かう作者の姿も想像できました。受験、頑張ってください。

秀逸

冬の雲とてもくらくてあしとまる

揖斐郡池田町

松岡 明璃 (小五)

あのこたつ毎日私をつかまえる

加茂郡川辺町

三嶋 仁香那 (中二)

冬の朝白い畑にくつのあと

加茂郡川辺町

大杉 ひより (中三)

なべかこみ今年一年ふり返る

大垣市

早野 結菜 (小五)

わらいぞめかぞくしやしんをとるときに

大垣市

水戸 咲那 (小三)

ふとんからでたくないからねてるふり

大垣市

川せ はる (小三)

ゆきだるまはながとびでたどうしよう

大垣市

なかむら あやか (小二)

ふゆのあさパパといっしよにねぼうする

大垣市

高木 千亜 (小四)

冬の朝母と手繋ぎあたたかい

瑞穂市

夏井 咲綺 (小四)

雪積もるつけてしまった足あとを

大垣市

浅野 華希 (小五)

入選

小中学生の部

かれはおち水門川ももよう変え

揖斐郡池田町

中野 豪士（小五）

ばしようさん冬木の桜ながめてる

揖斐郡池田町

高橋 大翔（小五）

川の上もみじがおちたゆつくりと

揖斐郡池田町

興柁 妃香（小五）

山眠る朝日が照らす池田山

揖斐郡池田町

樋口 凜花（小五）

冬空に散りばめられた金平糖

加茂郡川辺町

小栗 優月（中二）

クリスマスねようとすると親の影

加茂郡川辺町

大澤 愛永（中二）

ひえきつた体に染みる鱒大根

加茂郡川辺町

富松 輝行（中二）

初雪の降る街並みに灯る赤

加茂郡川辺町

藤井 香帆（中二）

寒椿寒さに負けず熱の赤

加茂郡川辺町

山口 陽生（中三）

雨の中音たてゆれる破れ芭蕉

大垣市

川邊 瑛太（小六）

曼珠沙華凜と咲くその美しさ

大垣市

永井 咲名（小六）

やればしよう葉からぼつんと落ちる水

大垣市

吉田 悠莉（小六）

ゆきだるま大中小とならんだよ

大垣市

宗宮 姫和（小五）

じよやのかねかすかに聞こえる百八回

大垣市

伊藤 三桜（小四）

じよやのかねさい後の一回ねすごした

大垣市

ほりた みお（小四）

子供たちタバコのまねの白い息

大垣市

林 泰地（小六）

おなべでは具がことこととおどつてる

大垣市

吉川 愛桜（小六）

白い息空をふわりと舞っている

大垣市

井関 春翔（小六）

秋の風ひゆうとなるときとりはだが

大垣市

安藤 花（小四）

あと五秒クッカー準備大みそ日

大垣市

兒玉 琉花（小五）

選者吟

主なき実家に掛けし注連飾

まさる

